

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄関係 沖縄返還交渉Ⅱ-2（対内）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2020-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/45930">http://hdl.handle.net/20.500.12000/45930</a>

總理  
19  
11  
1  
7  
1  
0  
2  
3

卷之三

三前打台也  
五料



(~~機密~~ 次官、海外務参事官、法国外務参事官、  
アメリカ局参事官了承済)

総理、ニクソン会談についての  
談話

昭和44/0/8

アメリカ局

1. 議題 (10月/4日大臣の御指示に基づく  
一沖縄には時間をとらないとの前提)

(1) 重要国際問題

(a) ヴィエトナム

(ニクソンの労苦をねぎらい、和平のため協力を惜しまざる旨表明。)

(b) 日露関係

(新聞にふみ切った旨表明)

(c) 米ソ関係

(総理より近況を質問の上、決断駁物を置く。)

(d) 中国及び分裂国家

(1) 現状を認めた上で安定を図ること。

(2) 国境に現在の版図で妥協させること。)

(2) 1970年代の日米関係

(a) Post-ニクソンの日米関係強化

(「ニクソン論」を考案方、随時修訂等)

(4) 安全保障

(核の傘、自主防衛：通常戦、海上兵力増強及び防衛当局間の具体的防衛分担)

(5) アジアの安定

(安定勢力としての日本の協力：経済のみならず、政治面も一アスバック、随時閣僚会議、サベ競争等)

(6) 経済援助 (ポスト・ヴィエトナム)

(7) 日米経済関係 (航空：シカゴを含む)

(8) その他 (原子力商船入港、アムチトカ核実験)

2 総理ブリーフ日程

(大臣以下最高幹部及びアメリカ局長は全部出席、キャコ内は局長レベル出席者)

10月22日(水) 共同声明及びナショナル・プレス・クラブ演説(余約局長)

10月30日(水) (1)エクソン会談進め方  
付：米国内政、外交事情

11月5日(水) (2)アジア情勢(1) (1)アジア情勢(4)  
(下田大使出席?) (アジア局長、北原大使。ヴィエトナムは北原大使の出席可能(な方とする。))

11

██████████ (3) 国際労働情勢 ( 欧亜局長、アジア局長 )  
11月13日 ( 木 ) 経済、産務 ( 経済局長、産務局長 )

(注) 以上のほかロジスティクス関係説明のため / 回日をとつておく要あり。また必要に感  
じ夫人日産説明も行なり。





佐藤總理、ニクソン大統領会談

議題案

昭和44/0.22

外務省

1 沖縄返還問題 (~~ただし、時限はとらざる旨~~)

2 重要国際問題

(1) ヴィエトナム

(ニクソンの労苦をねぎらい、和平のため協力を惜しまざる旨表明。)

(2) インド

(新印にふみ切つた旨表明。)

(3) 米ソ関係

(総領より近況を質問の上、油断業務を説く。)

(4) 中国及び外蒙国家

(イ) 現状を認め、上で安定を図ること。

(ロ) 國府に現在の版図で我後させること。)

3 1970年代の日米関係

(1) Post-沖縄の緊密関係強化

(「ホットライン的」を考案方、同時協議等。)



(4) 安全保障

( 核の傘、自主防衛：通常戦、海上兵力増強及び防衛当局間の具体的防衛分組 )

(5) アジアの安定

( 安定勢力としての日本の協力：経済のみならず、政治面も一アスペクト、開発閣僚会議、サバ紛争等 )

(6) 経済援助 ( ポスト・ヴィエトナム )

(7) 日米経済関係 ( 航空：シカゴを含む )

(8) その他 ( 原子力商船入港、アムチトカ核実験 )



( 總理訪米関係資料 )

スピーチ、ステートメント類

( 案 )

昭和44/0.22

アメリカ局

1. ワシントンにて

- (1) ダレス空港到着ステートメント ( 11.17 )
- (2) ホワイト・ハウス歓迎式挨拶 ( 11.19 )  
( 4分程度 )
- ✓ (3) 閣僚長官主催午餐会挨拶 ( 11.19 )  
( ごく簡単なトーストにとどめる )
- (4) 大統領夫妻主催晩餐会挨拶 ( 11.19 )  
( 酒席時間を含め / 0分程度 )
- ✓ (5) 邦人記者会見 における 冒頭 ステートメント ( 11.21 )
- ✓ (6) ナショナル・プレス・クラブ主催午餐会演説 ( 11.21 )
- (7) ワシントン街発式挨拶 ( 11.21 )  
( 4分程度 )

2. ニューヨークにて

- (1) ウェスチェスター空港到着ステートメント ( 11.21 )
- ✓ (2) ロックフェラー三世主催非公式晩餐挨拶 ( 11.21 )

3. サンフランシスコにて

- (1) サンフランシスコ空港到着ステートメント ( 11.23 )
- ✓ (2) 現地新聞記者会見における冒頭ステートメント  
( 11.23 )

4 離米に際して

- ✓ (1) 離米にあつてのニクソン大統領宛てメッセージ  
(11.25)
- ✓ (2) 離米にあつてのステートメント(11.25)

5 帰国に際して

- (1) 羽田空港到着時のステートメント(11.26)
- ✓ (2) 帰国後の記者会見における暫くステートメント  
(11.26)

6 その他

- ✓ (1) 駐米琉球政府行政主席にあつての  
メッセージ (11.21)
- (2) アボロ / 2号潜水艇に関する視察 (11.24)  
(11.19)

極 秘
無 期 限
10 号の内
9 号

( 総理訪米関係資料 )

総理訪米日程 (昭和44/02/現在)

昭和44/022

外務省アメリカ局

( 時間は 添印は日本時間、それ以外は現地時間 )

日 時	行 事	備 考
<u>1/17日(月)</u>		
※10:00	東京国際空港発 ( 飛行時間約6時間 40分 )	航空機は以後特に記載の ない限り日航特別機 ( DOG )
<u>1/16日(日)</u>		
21:40	アムステルダム着	給油、整備 下田大使夫妻一行に参加
22:40	アムステルダム発 ( 飛行時間約6時間 35分 )	
<u>1/17日(月)</u>		
10:15	ワシントン着 ( ダレス空港 )  直ちに大使公邸に入り 休養  ( 公邸泊 ) ( 注1 )	到着ステートメント

(注/) 総理御夫妻、橋田、小杉副総理秘書官、大津総理秘書、  
 国副、書記官、従者(2名)は公邸泊  
 他の随員はホテル泊(ホテル名確認中)

11月18日(火)

夕刻	午後まで公邸にて休養 ブレア・ハウス入り 内輪の夕食会 (公邸)	時間未定
----	---	------

11月19日(水)

10:30	ホワイト・ハウス着 歓迎式	挨拶交換(各4分程度) 栄誉礼が行なわれる
11:00	大総領との第1回会談 (1時間30分~2時 間) (ホワイト・ハウス)	同席者未定
13:15	ロジャーズ國務長官主 催午餐会	小人数のスタッグ 場所、出席者未定 挨拶(簡単なトースト)
15:00	ロジャーズ國務長官と の会談(30分~45分)	場所未定
20:00	大総領夫妻主催晩餐会 (ホワイト・ハウス)	ホワイト・タイ(勲章係 用任意) 公式メンバー全員出席 (大津秘書の出席方式側と 折衝中)

挨拶交換(注1)

(注1) (1) 米側はトーストのあとに6分(総理の場合は通訳時間を含め10分)程度の挨拶を交換することを提案。

(2) テキストの使用は総理の御意向次第。

11月20日(木)

11:00 大統領との第2回会談  
(1時間30分)  
(ホワイト・ハウス)

午後 アーリントン墓地参拝 無名戦士の墓及び故ダレス國務長官の墓に参拝  
(無名戦士の墓と故ダレス國務長官の墓の双方を繞けて参拝しうるとり米側と折衝中)

18:30~下田大使夫妻主催レセ

20:30 プション (公邸)

11月21日(金)

10:00 大統領との第3回会談 時間につきホワイト・ハウスの離脱取付中  
(45分)  
共同声明発表 (黒皮行政主席あてメッセージ?)

11:00~ 邦人記者会見 場所はホテル・ワシントンになる見込  
12:00

12:30~	ナショナル・プレス・	演 説
14:30	クラブ午餐会 (注1)	
	出発行幕 (注2)	出発挨拶
	(場所はワシントン・	
	モニメントとなる見込)	
16:00	ワシントン発	米機特別機搭乗 (注3)
	(アンダーグラウンド)	(70-131-5 36人乗機)
17:10	ニューヨーク着	到着挨拶
	(ウェストチンダー空港)	
	ワールドワ・タワーズ・ホテルへ	
18:30~	レセプション	次の4団体共催
20:00	(ホテル・ビエール)	Japan Society
		(日本協会)
		Japanese Chamber of
		Commerce of New York
		(日本商業会議所)
		Nippon Club
		(日本クラブ)
		Far-East America &
		Council of Commerce
		& Industry
		(福東米園商工評議会)
20:30~	ロックフェラー三世主	スタック、非公式
	催し懇会 (注4)	談 話
	(ホテル・ビエール)	
	(秘夫人については、	
	ロックフェラー三世夫	

人が観劇に招待され、  
軽い夕食を差し上げた  
旨申請している。）

ウォルドルフ・タワーズ

ホテル泊

(注)

1. 主催者側は、12:00~12:30をレセプション、  
12:30よりランチ、13:07より20~25分の總理  
演説、引続き25分間の質疑応答、とすることを提案してい  
る。(9月26日付へファーナン会長書簡)

2. 詳細未定中

3. 同行記者団は別途民間航空機にて移動予定

4.(1) 来朝出席予定者につき、ロックフェラー三世は下記を考  
慮中の意

D・ロックフェラー(チェーズ・マンハッタン銀行頭取)、  
E・フォード(フォード会長)、B・ケンドール(BOA  
T会長)、G・ホージ(マニファクチュアラーズ・ハノー  
ヴァー・トラスト社長)、H・ウォーナー(モビル・オイ  
ル社長)、J・ワース(カルテックス社長)、F・スタン  
トン(OBB社長)、E・トッヴァン(タイム・ライフ副  
社長)、M・バンディ(フォード財団理事長)、B・モイ  
ヤース(ニュースデー社長)、A・トロアブリッジ(アメ  
リカン・マネジメント・アソシエーション会長)、J・ジ  
ャミーソン(スタンダード・オイル会長)、カーランド  
(AFL-CIO)各氏。

ワトソンエブリ会長

なお、以上のほかバージー上院議員、~~ワトソンエブリ~~  
長、ビービー・ニュースウィーク会長等も出席方検討中の由。

ボークGE会長、ゴット U.S. スチール会長。



11月22日(土)

休憩、公式行事なし

11月23日(日)

11:00 ニューヨーク発  
(ケネディ空港)  
(飛行時間約6時間  
5分) 田島挨拶

14:05 サンフランシスコ着  
宿舎マーク・ホプキン  
ス・ホテルへ 到着挨拶

14:30 現在サンフランシスコ新 時間くり下げも検討中  
~15:00 聞記者等との懇談

19:30 内輪の夕食会  
(総領事公邸) 公式メンバー及び随員に  
限る(同行記者団に対し  
ては別途招宴を行なう)

11月24日(月)

午前 休憩

12:00~ 同行記者団と昼食 場所未定(適当なホテル  
またはクラブとなる見込)  
13:30

14:30~ 海岸地帯ドライブ  
16:00 (オペラ・ハウスを食  
む)(注1)

17:45 レーガン加州知事また  
は代理の表敬を受く(予定)

18:00 アリオト市長の演説を受く(予定)

夜 内輪の夕食会(注2)

(注)

1. 日米安保条約調印の行なわれた米陸軍第6軍基地内建物に、安保条約調印を記念する事象が保存されているか否かにつき調査中。

2. ジャパン・ソサイエティ、その他団体によるレセプション及び晩餐が提案されていたが、休養を旨とするとの総理御意向により内輪の夕食に切換えの予定。

11月25日(火)

8:50 サンフランシスコ発  
(飛行時間約8時間  
35分)

11:25 アンカレッジ着 給油、整備

12:25 アンカレッジ発  
(飛行時間約8時間  
40分) エタソン大統領への贈米  
メッセージ及び  
贈米挨拶(注1)

11月26日(水)

※15:00 東京国際空港着 空港到着挨拶

(注1) いずれもサンフランシスコで行なわれることもありうる。



アメリカ局長

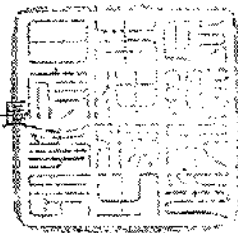
北米第一課

総沖(外)第119号

昭和44年11月8日

外務大臣 殿

日本政府沖縄事務所長



内閣総理大臣の訪米交渉に際しての在那覇日本国政府機関  
の情報連絡体制の整備について

今次内閣総理大臣の訪米交渉に際し在那覇日本国政府機関の情  
報連絡体制を別紙要綱のとおり定め、施行し、対米交渉の間にお  
ける沖縄の情勢対処に万全を期することとしましたので報告しま  
す。

米大使

首席事務官  
副首席事務官  
渉外課長  
渉外課員  
渉外課員  
渉外課員  
渉外課員  
渉外課員  
渉外課員  
渉外課員  
渉外課員



日 本 政 府

3670

内閣総理大臣の訪米交渉に際しての在那覇日本国政府  
機関の情報連絡体制整備要綱

1 趣 旨

内閣総理大臣の沖縄返還交渉等に関する訪米交渉に際し、沖縄  
現地と本土との間の関係機関の情報連絡を緊密にし、もつて、当  
該訪米交渉の間における沖縄の現地情勢への対処に万全を期する  
ため、在那覇日本国政府機関における情報連絡体制を整備するも  
のとする。

2 情報連絡室の設置

- (1) 前記1の趣旨に基き、在那覇日本国政府機関と外務省その他  
の機関との間の緊密かつ一元的な情報連絡に当る機関として、  
昭和44年11月16日から同年11月22日までの間、臨時  
に情報連絡室（以下「連絡室」という。）を設置するものとす  
る。
- (2) 連絡室は、日本政府沖縄事務所次長室に置き、その開設時間  
は、前項の期間中毎日24時間とする。
- (3) 連絡室と外務省その他の機関との情報連絡は、主として、特  
設専用電話をもつて行なうものとし、これに通常電話、電報、  
書信及び共同通信ファックスを併用するものとする。

特設専用電話	那覇	4局	3949番
通常電話	那覇	2局	2635番
	那覇	2局	(5)3002 (新架設)
	那覇	2局	(5)3003 (新架設)

### 3 情報連絡担当職員

(1) 連絡室に次の職員を置く。

主任連絡官	4名
連絡官	7名
連絡事務官	7名

(2) 主任連絡官、連絡官及び連絡事務官は別表1に掲げる者をもって充てる。但し、必要に応じ随時増減することができる。

### 4 業務運営要領

(1) 連絡室に勤務する情報連絡担当職員の勤務区分及び氏名は別表2のとおりとする。

(2) 前項の勤務区分による連絡室の勤務時間は毎日午前9時から翌日の午前九時までとする。

(3) 情報連絡担当職員は、外務省その他の機関から情報連絡を受信した時は、直ちに日米琉語問委員会日本国政府代表たる大使（以下「大使」という。）及び日本政府沖縄事務所長（以下「所長」という。）に報告し、その指示を受けなければならない。この場

合必要に応じその指示により琉球政府行政主席又は高等弁務官に情報連絡事項を通報し、又は必要がある場合はとるべき措置につきこれを要請するものとする。

- (4) 対米交渉の経過、沖縄における動向等に関し、情勢を分析及び必要な対策を検討するため大使、所長及び情報連絡職員をもつて構成する情報連絡会議を設置し、必要に応じ開催するものとする。
- (5) 主任連絡官及び連絡官は、それぞれ対米交渉の推移に対応する琉球政府その他各種団体等の反応、動向等について情報の蒐集に努め、情報連絡会議において又は随時大使及び所長に報告しなければならない。
- (6) 情報連絡事項は秘扱いとし、沖縄における新聞その他報道機関に対しては発表しないものとする。

勤務区分及び氏名

区分	十一月十六日(日)	十七日(月)	十八日(火)	十九日(水)	二十日(木)	二十一日(金)	二十二日(土)
主任連絡官	次長 宮崎 隆夫	参事官 村田 幹雄	参事官 開淵 直三	次長 陽治 憲	参事官 村田 幹雄	参事官 開淵 直三	次長 陽治 憲
連絡官	総務課長 嶋海 忠一 調査官 島田 治	援助業務課長 小林 悦夫 調査官 長門 保明	調査官 山口 健治 渡航課長 宮田 辰郎	調査官 佐々木 正浩 総務課長 嶋海 忠一	渡航課長 田辰 郎 調査官 島田 治	援助業務課長 小林 悦夫 調査官 長門 保明	調査官 佐々木 正浩 調査官 山口 健治
連絡事務官	庶務係長 大森 彌夫	庶務係長 宇都宮 晴長	連絡係長 新垣 恒成	事務官 金城 見好	事務官 安谷 照夫	事務官 上里 安申	渉外係長 岡野 純淨

備考 賀陽次長は、必要に応じて常時勤務するものとする。

別表 1

情報連絡担当職員

区分	氏名
主任連絡官	<p>日本政府沖縄事務所次長 宮崎隆夫</p> <p>次長 賀陽治彦</p> <p>参事官 村田幹雄</p> <p>参事官 澤淵直三</p>
連絡官	<p>日本政府沖縄事務所総務課長 嶋海忠一</p> <p>援助業務課長 小林悦夫</p> <p>渡航課長 宮田辰郎</p> <p>調査官 佐々木正浩</p> <p>調査官 長門保明</p> <p>調査官 山口健治</p> <p>調査官 島田治</p>
連絡事務官	<p>日本政府沖縄事務所庶務係長 宇都宮義長</p> <p>法務係長 大森壽夫</p> <p>渉外係長 岡野維淨</p> <p>連絡係長 新垣愷成</p> <p>事務官 金城見好</p> <p>事務官 上里安申</p> <p>事務官 安谷麗照夫</p>